



本道の林業を取り巻く課題

林業労働者の育成確保	① 依然として高い高齢者(60歳以上)割合 【60歳以上割合32%】	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者雇用安定法に基づく高齢者の就業の機会の確保や、将来の安定的な労働力を確保するため、高齢者、さらには女性へ配慮した作業環境の整備が必要 また、現在60歳以上の林業労働者の多くは、今後十年間での引退が予想されるため、新たな新規就業者の獲得が急務。
	② 就業者の離職 【初年度離職率24%】	<ul style="list-style-type: none"> 将来必要となる林業労働力を確保するためには、新規参入者の確保と併せ、定着率の向上に向けた取組が必要。 新規参入者の育成・確保は、労働災害防止や生産性の向上の観点に加え、育成に係る費用負担を軽減することが必要。
労働安全	④ 依然として多い死傷災害 【死傷年千人率は他産業の7倍】	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害を防止し、健康で安全な職場づくりを進めることは、林業労働力を継続的に確保するために不可欠である。また、人工林資源の充実に伴う林業生産活動の活発化から、的確な安全対策を実施する必要。 林業は、主要産業の中で死傷千人率が依然として高いため、経営者や労働者のより一層の意識の高揚や安全で安心な労働環境の確保が必要。
	⑤ 機械伐倒の推進	<ul style="list-style-type: none"> チェーンソー伐倒による死亡労働災害が依然として多いことから、生産性はもとより安全性を向上させるため、ハーベスタ等による機械伐倒の推進が必要。
林業事業体の強化	⑥ 通年雇用化の推進 【素材86% 造林48% 種苗31%】	<ul style="list-style-type: none"> 林業労働者や一般の求職者の多くは通年雇用を望んでおり、通年雇用化によって離職も抑えられる傾向にあることから、安定的に労働者を育成・確保するためには、一層の通年雇用化など雇用形態の改善が必要。 通年雇用など安定した雇用のためには、事業量を安定的に確保する必要。
	⑦ 事業体の経営基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> 今後予想される素材生産量の増大に対応するためには、さらなる作業効率の向上とコスト低減が必要。 効率的かつ安定的な林業経営を実現するとともに、主伐後の再造林の実施など、長期的な視点に立って地域の森林経営を担うことができるよう、経営基盤の強化が必要。
その他	⑧ 北森カレッジの開校と生徒への支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を安定的に確保し育成するためには、実習等の支援や就業先の確実な確保が不可欠。
	⑨ 多様な働き方への対応	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響などにより生活様式が変化している中で、「パラレルワーク」など、これまでとは異なる働き方への対応が必要。

取組の方向(案)

<ul style="list-style-type: none"> 軽労化等の推進による女性や熟練労働者の活躍の促進 コロナ禍で増加した、都市部の地方移住希望層へのアピール。 SNSや動画の活用による魅力発信
<ul style="list-style-type: none"> OJTの実施方法等の教育・能力評価方法の改善 若手労働者の定着支援 緑の雇用の積極的な活用
<ul style="list-style-type: none"> 労災の発生状況等詳細分析・原因に応じた取組の重点実施 新技術を活用した安全装備の導入促進
<ul style="list-style-type: none"> チェーンソー伐倒作業中の労災の撲滅 安全性の確保を考慮した高性能林業機械等の導入・活用
<ul style="list-style-type: none"> 異業種との連携や、特定地域づくり事業協同組合の活用等、地域での仕組みづくり 労働者の多能工化
<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用による効率化、軽労化 働き方改革の推進 長期安定経営に向けたマネジメント力向上 森林組合系統における事業連携制度の活用促進
<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した運営体制、生徒の確保と確実な就業
<ul style="list-style-type: none"> 農林漁業と連携した取組 通年での就業を可能とする仕組みづくり 林福連携の取組

